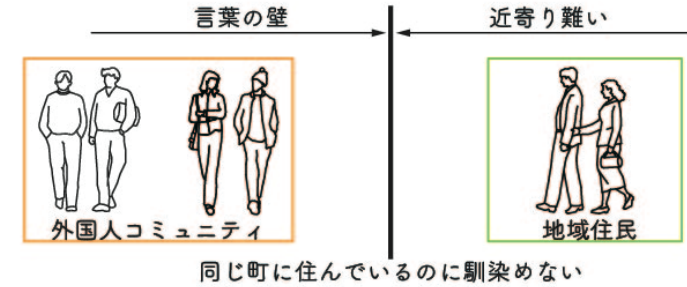


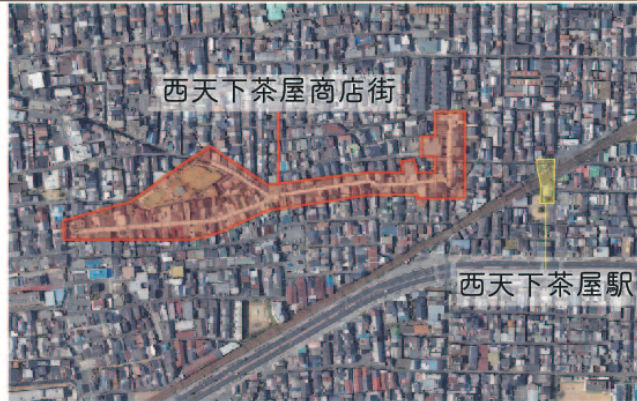
西天下わちゃわちゃ — 地域循環をつなぐ外国人住居 —

1. 外国人との壁

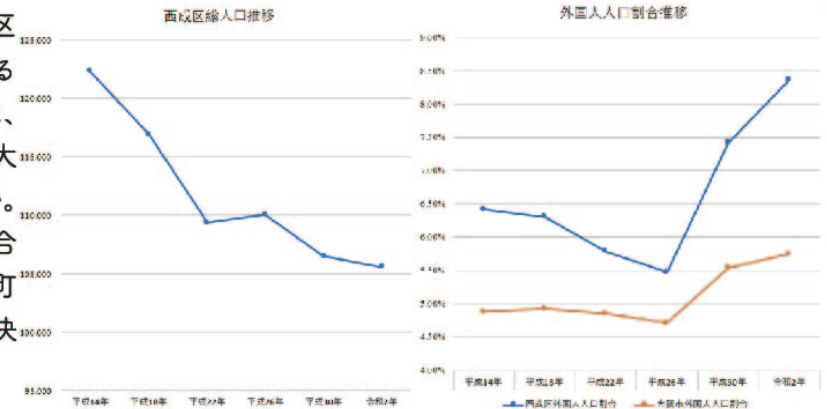
現在日本の人口は減少しつつあるが、外国人人口は増えている。彼らは、地域に馴染んで日本人との共存を果たす人達もいるが、中には外国人同士でのコミュニティを形成し、日本の中にある小さな異国を形成してしまう場合もある。そのような場所には後から来た同国の人が集い、より近寄り難いエリアへと拡大する。そこには治安が悪いというイメージであったり、いつになっても日本語を習得できず、言語の壁を抱えたまま何年も過ごすという人達もいる。今後も外国人人口の増加が考えられる中、このような問題を解決する策が何かあるのではないだろうか。



2. プロジェクト対象敷地



本提案での対象敷地は、大阪市西成区にある、シャッター街化の進んでいる西天下茶屋商店街とする。西成区は、総人口が減少し続けている一方で、大阪市内の他地域に比べ外国人が多い。中でも特に、留学生が占める割合も他地域より多くなっている。この町の活気と、外国人との壁の問題を解決すべための提案を行う。

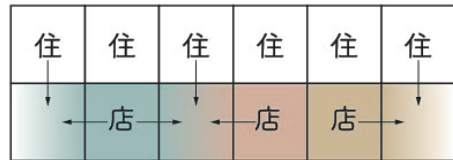


3. 寮と商店街

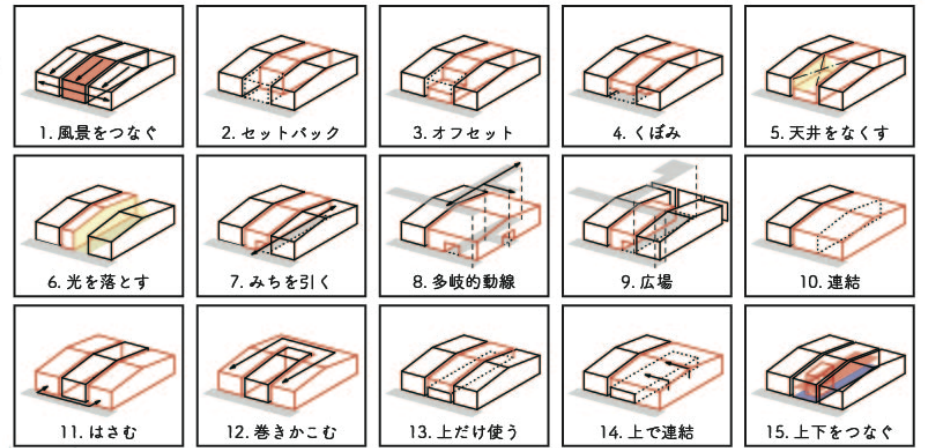
- ①言葉の壁の問題を解決するため、西成区に多い外国人留学生を巻き込み、外国人と地域住民の会話をつなぎ、語学習得の手助けをする。
- ②留学生を含む外国人の住居を、利用されていない商店街2階に設ける。「外国人のいる商店街」という基盤を作る。
- ③既存店舗と隣接している空き家に、交流スペースを設ける。交流スペースには「店舗との関連性」・「住居での生活に必要な要素」を持つものとする。



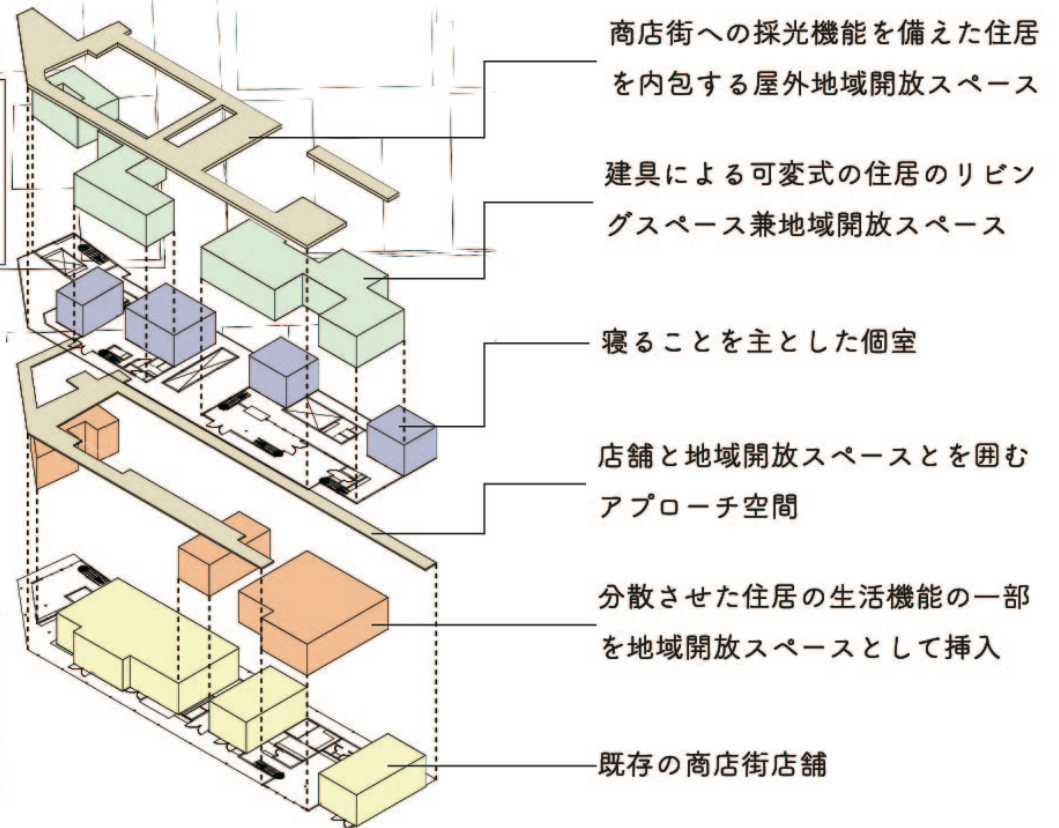
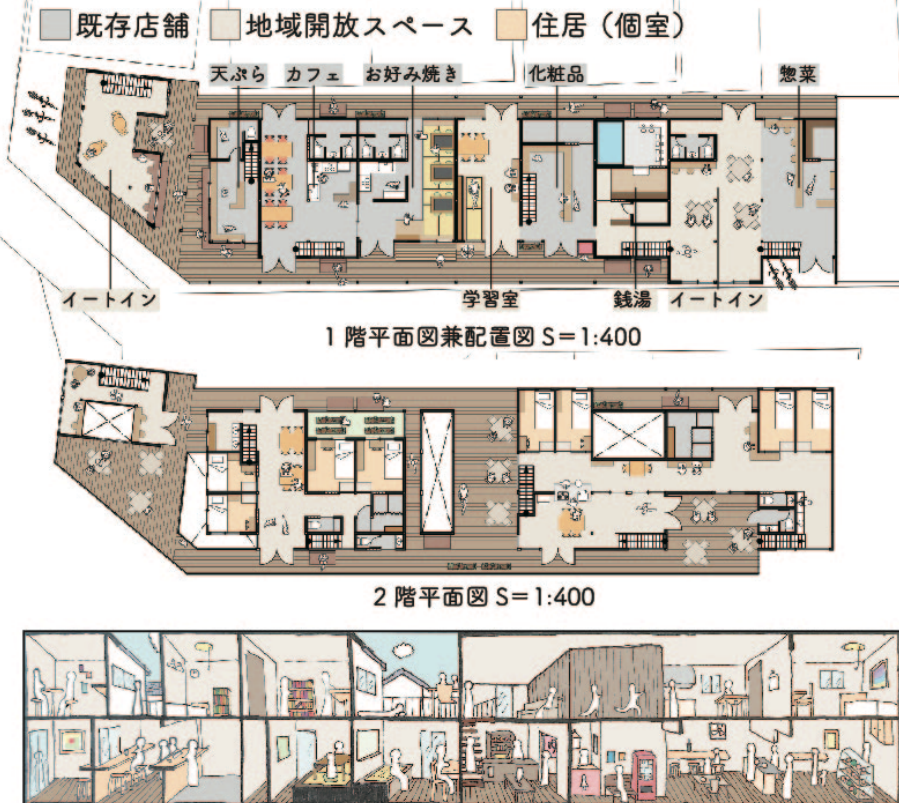
4. 設計手法



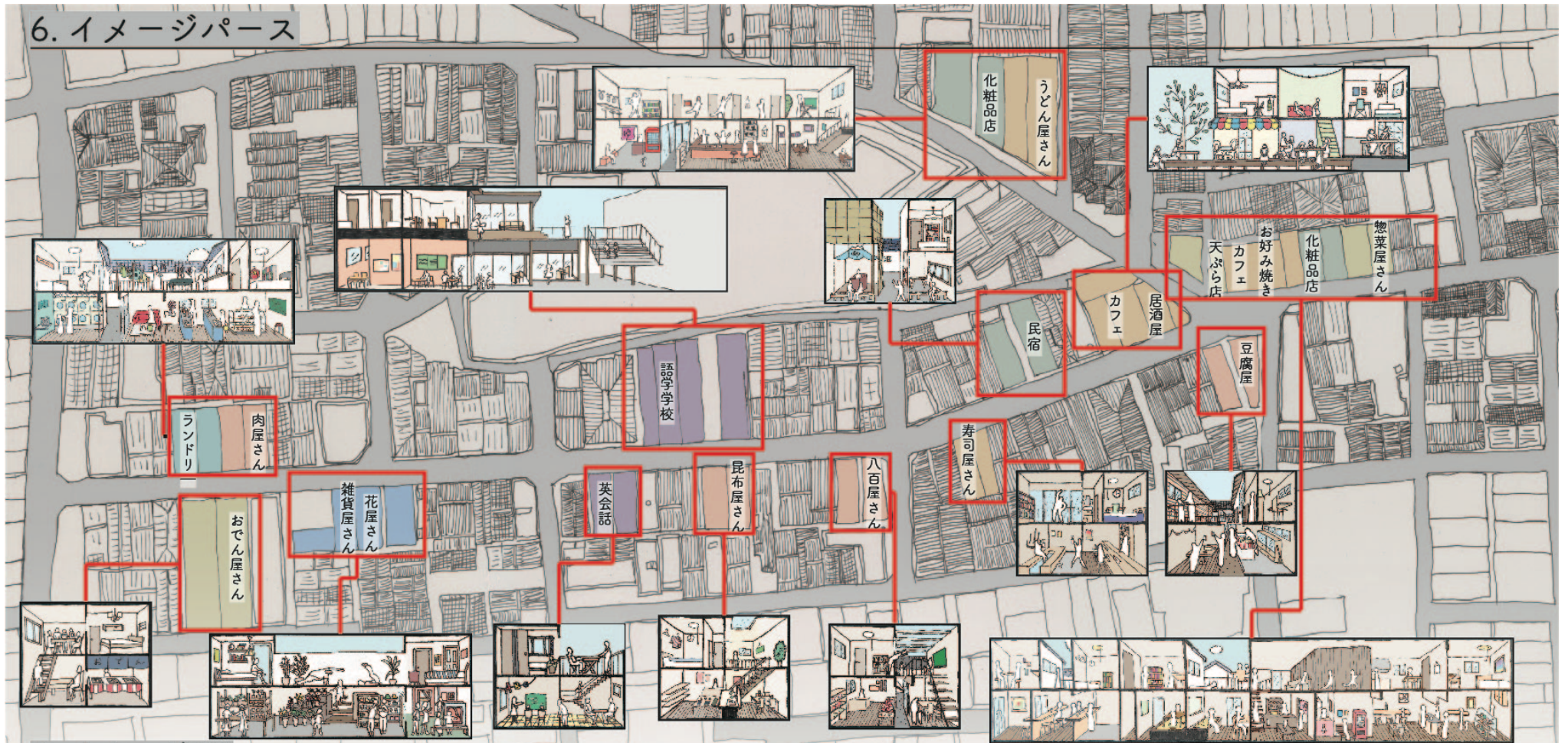
外国人が暮らすための住居を商店街の2階に設ける。その時、本来生活で必要となる入浴設備やキッチンなどは設けない。商店街一階では、既存店舗の隣に地域開放スペース兼生活機能スペースを設ける。例えば、食料品店が隣の場合はキッチンを、化粧品店の隣には銭湯などを配し、地域住民も外国人居住者も日常的な利用をする。気軽に訪れることができるようにすると、商店街の風景を維持するため、15の手法を用いて設計を行う。



5. ケーススタディ



6. イメージパース



7. まちの変遷

phase0



■ 既存店舗 ■ アーケード
■ 最初の設計対象地

phase1



閑散としている商店街にいくつかの点を打ち、両者の活動の場を増やす。

phase2



「外国人と暮らすまち」として、両者の壁をなくし、共存を果たす。

phase3



外国人も商店街で働き始め、活気と居場所をこの場所に与える。